

今戸焼 干支人形

騎牛歸家きぎゅうきか



仏教には、悟りへ至る道程を十枚の絵で表した十牛図(じゅうぎゅうず)があります。「今の自分」を牧人、「本当の自分(真の自己)」を牛の姿で表現し、牧人が牛を探し求める「尋牛(じんぎゅう)」から始まります。そして牧人が牛の足跡を見付けて牛を発見し、捕まえて手なづけ、六枚目の「騎牛歸家(きぎゅうきか)」では「今の自分」と「本当の自分」が一つとなった自然さと、天地が織りなす自然とが相まった境地を、ゆったりと牛の背に揺られて笛をのどかに奏でながら家に帰る牧人で表現されています。その後牛も牧人も姿を消し、十枚目の「入廬垂手(にってんすいしゅ)」では、ただそこに居るだけで仏性が顕現し、徳のある道が開けて市井の人々を和ませている布袋様が描かれています。

出会う人々を幸せにする布袋様となった牧人を牛の背で笛を奏でる童子に重ねて、新作の干支人形「騎牛歸家」を作りました。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます

今戸焼 白井

六代 白井 裕一郎